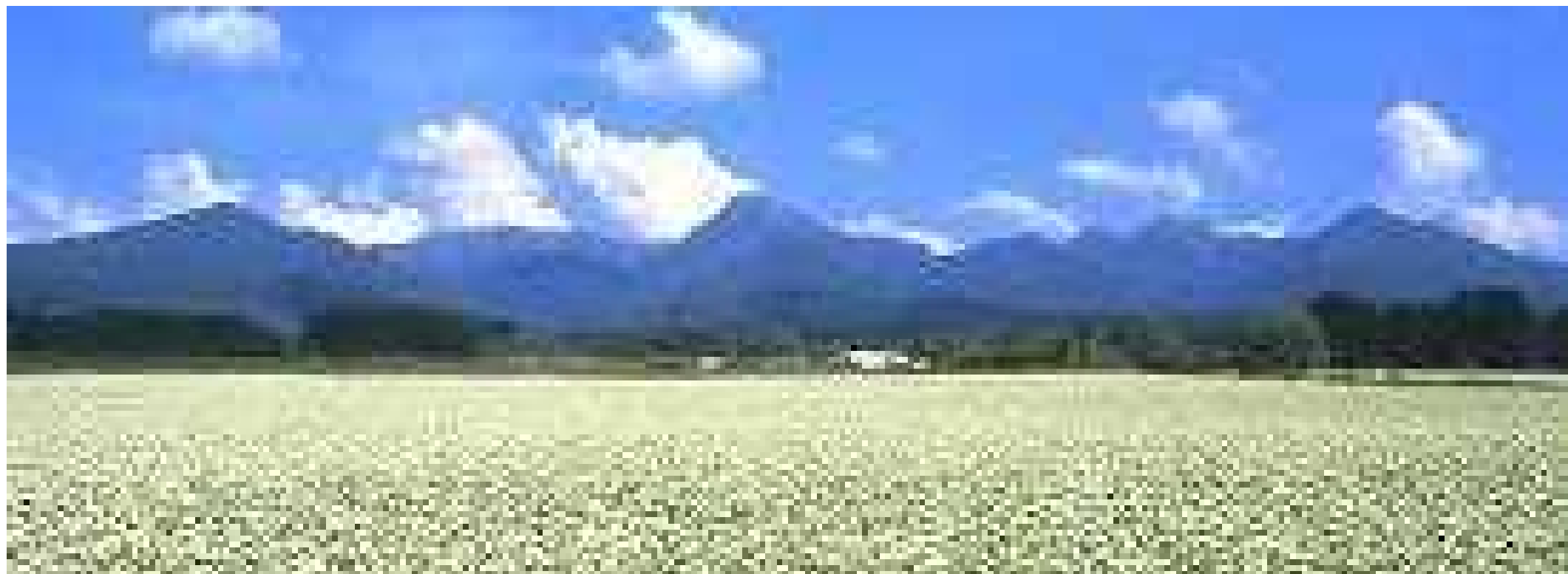


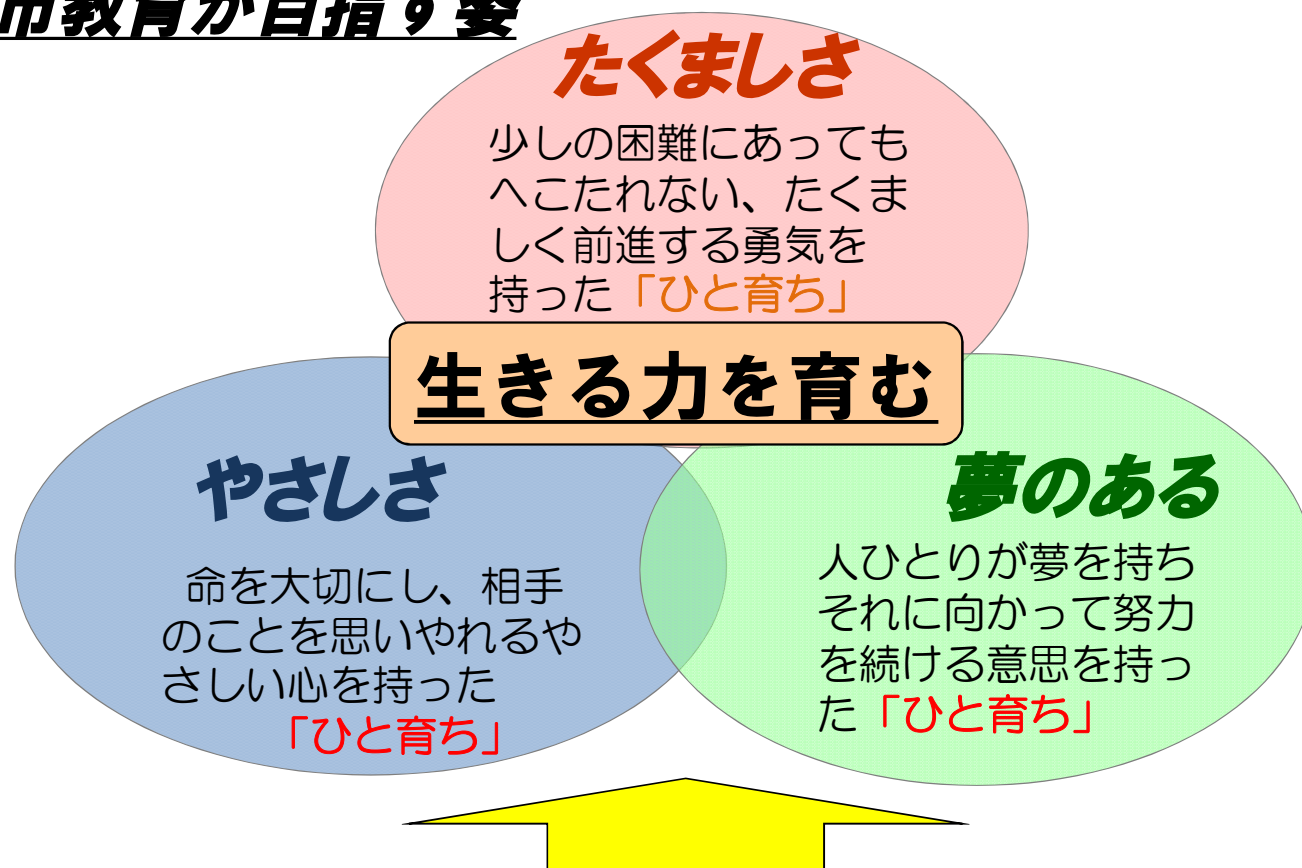
# 茅野市の教育活動の基盤に 「読書・図書館教育」を据えての読書活動



平成29年10月12日 茅野市教育委員会 生涯学習課長 藤森 隆

# 一 「読書」と「茅野市教育大綱」

## 茅野市教育が目指す姿



すべての教育活動の基盤に「読書・図書館教育」を据える

## 二 計画の基本方針

### ①乳児期(胎児期)から

家庭での読書活動に親しみ、生涯にわたって自ら読書活動を楽しむ

### ②家庭、幼保園、学校、地域、図書館

読書活動を、子どもの発達段階に応じた日常的・継続的に実践する

### ③家庭、幼保園、学校、地域、図書館

読書環境の整備を図り、連携・協力により読書活動推進体制を整える

### ④読書活動に関する理解

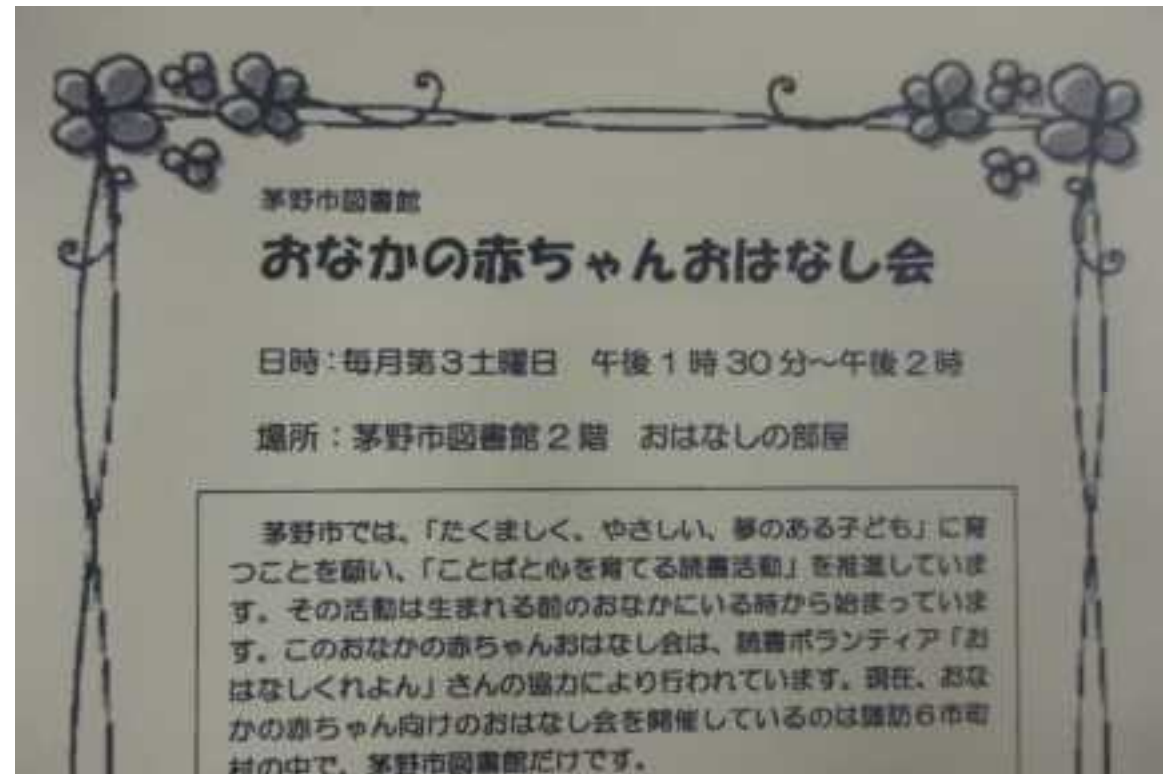
子どもの読書活動の意義や大切さについての啓発と情報提供を行う

# 三 子ども読書活動推進のための施策

## 1 子どもの発達段階別施策の推進

### (1) 胎児期 【茅野市図書館「おなかの赤ちゃんおはなし会」】

- ・茅野市図書館では、毎月第3土曜日13:30~14:00まで読書ボランティア「おはなくれよん」さんに、おなかの赤ちゃん向けのおはなし会を開催しています。



## (2) 乳児期(0歳～2歳)

### 【「読書の森 読リーむinちの」との協働によるファーストブック】

・2000年(H12)に、全国に先がけて赤ちゃんに絵本を贈る「ファーストブックプレゼント」公民協働による「読リーむinちの」が主体に行われ、現在で18,800冊プレゼントされている。赤ちゃんに2冊贈られる。1冊目は出生届を出した時に市民課の窓口で渡され、2冊目は4ヶ月健診の時に渡す。



和紙を使って袋作り



出生届時に市民課窓口からのプレゼント

• 4ヶ月健診で

「直接本を渡された時、とてもうれしく温かさを感じました。まだ、4ヶ月の赤ちゃんですが、1ページずつ広げて見せていただいた時には、とても興味深げにじっと見ていました。私も感動しました。」

今この本を読みましたが、お子さんは絵をよく見ていましたね。赤ちゃんは、絵と音（言葉）を感じるんですよ



健康管理センター プレゼンターによる読み聞かせと相談

### (3) 幼児期(2歳～6歳) 【保育園による 朝の絵本の時間】

- 幼稚園や保育園では、毎日「朝の絵本の時間」が設けられ、保育士が絵本を読んでいる。園では「絵や耳からの読書」を実践している。

早稲田大学教授 森山卓郎先生から  
(昨年度の視察から)

絵本の時間があると、「おはなしのジュウタン」の上に園児が座り、先生の後ろには紺色の「おはなしカーテン」が引かれます。まさに、「お話を聞く空間」ができます。その先生は職員会議の折にも研修しているとのことで、見事な読み聞かせに、子どもたちは、すっかり集中していました。日頃の取り組みを感じました。



#### (4) 児童前期(6歳～8歳 小学校低学年)

##### 【入学した1年生へ セカンドブックプレゼント】

・ファーストブックプレゼント活動で蒔かれた読書の種は、親子の絆を深め、絵本好きな子どもを育ててきた。この活動を一層実り大きいものにするために、小学校入学児童に本を贈る「セカンドブックプレゼント」事業が2005年(H17)にスタートした。これも「読りーむinちの」と生涯学習課と協働して行う。

手渡し会では、市長、教育長等の行政関係者、民生児童委員、地域の役員、地域ボランティア、読りーむinちの等多くの皆さんによる手渡し会を行っている。1人1冊で現在6,834冊が子どもたちに渡っている。



市長による読み聞かせ





## 【K小学校に参加した手渡しのプレゼンターの感想】

キラキラと輝く子どもたちの姿に感動いたしました。手渡しの際に子どもたちが家庭で読んでもらっていると聞き、読書が定着していると感じました。親が全員そろっていて、親の読み聞かせを熱心に聞く姿に感動しました。先生が注意してもなかなか聞かない子どもが親の前では、よく聞いている姿は素晴らしかったです。この活動の旨を十分にPRして、市民にさらに理解、協力していくことを期待しています。

＜行政、民生委員、地域役員、読り一むinちのよる手渡し＞

## (5) 児童後期(8歳～12歳 小学校 中高学年)

- ・保護者・家族や地域の方々が読書参観を参観することによって、こどもの学習活動の様子を観察し、茅野市が「読書」を大切にしていることを理解すると共に、家庭や地域での読書のあり方を考え合う場とする。

### 「読書参観日」の内容例

#### 【小学校の例】

- ・親子読書
- ・ペアー読書
- ・絵で読む読書
- ・本の紹介
- ・(私のすすめ本)
- ・読書会
- ・百科事典の引き方
- ・ビブリオバトル
- ・あじみ読書
- ・本の帯作り
- ・調べ学習

#### 【中学校の例】

- ・読み聞かせ
- ・読書会(読みたい本を班で決めての読書)
- ・ブックトーク
- ・ビブリオバトル
- ・調べ学習
- ・新聞を利用して

## 読書参観日 (T小学校 3年 親子読書)



### お母さんの感想から

今日は親子読書でした。うちの子は「いいことがありました」という本を読んでもくれました。家では、私に読んでくれることがあまりなかったので、どうなるか心配しました。最初は、緊張気味であったが、本の中でネズミの子が何度も練習して、やっと逆上がりができたところは、何か嬉しそうな表現でしたので、思わずすごいと思いました。家でも今度は私が読んであげたい……。

## (6) 思春期(12歳～15歳 中学生)

### 【学校図書館を活用した「調べ学習」】

茅野市では、各学校に教科等で利用する「学校図書館利用年間計画」を作成させ、できる範囲で「調べ学習」を実践し、次年度への修正等を行っています。

#### Aさんの学習の姿から

Aさんは、栄養不足の問題が世界規模の問題であることを再確認し、その解決のために様々な活動が行われていることを図書館の資料から知り、日本から世界へと考えを広めることができました。



図書館の本をつかって調査するAさん

## 【学校図書館長に学校長を任命するに至った経過】

- ・2011年(H23) 泉野小学校読書教育公開研究会の「シンポジウム」から
- [シンポジスト] ・国立教育政策総括研究官:立田慶裕 ・文字・活字文化推進機構:  
肥田美代子 ・教育長:牛山英彦 ・学校長:宮坂のり子

・読書推進は「学校ぐるみ」でやらなくては  
いけない

(司書教諭、学校司書、担当者に任せてはいけない)

・市「子ども読書活動推進計画」の「ことばと  
ところを 育てる活動」の実現は学校全体で  
の取り組み

・学校図書館は、「総合的な学習センター」

・「読書によって子どもを育む」場

・学校図書館は、「教育課程」と深く関連が  
あり、それを司るのは学校長

・教育長が「学校図書館長に学校長を任命  
したい」と提案



教育委員会で検討し 次年度から任命

# 学校長を「学校図書館長」に任命

## 学校図書館長として

- 「学校図書館経営方針」の作成と実践  
学期ごと見返しをして、次学期に向けての修正
- 図書館運営委員会、図書選定委員会を開催する
- 「読書センター」「情報センター」「学習センター」  
をいかした読書推進
- 例外なく毎朝行う「朝の10分間読書」
- 月1回の「家庭読書の日」を設定
- 「朝読書見学会」「読書参観日」の実施
- 読書ボランティアとの連携
- 校内読書研修の充実

学校長自身が「学校図書館経営方針」を作成する

平成29年度  
学校図書館運営方針



茅野市教育委員会

## 2 各場(担当)における読書活動の実際

### ① 読書の森 読リーむinちの

2000年(H12)7月に行政とパートナーを組んで活動する公民協働の読書活動推進機構「読書の森 読リーむinちの」が設立した。読書の楽しみを活かし、子育てや、家庭、園、学校、図書館など読書推進活動に関わりながら、全ての子どもが将来に渡って豊かな読書生活ができるよう応援する。

#### 【市民と行政が一体となった工夫】

- ・公民協働による読書活動推進組織をつくる
- ・「読リーむinちの」の活動費を補助する  
ファーストブック セカンドブック→家庭読書への種まき
- ・事務局を生涯学習課に置く
- ・「読リーむinちの」のメンバーが、他の読書ボランティアに所属している
- ・地域の方々と一緒に読む読書活動(月夜のおはなし会)



### (3) こども読書活動応援センター

2002年(H12)に、子どもの読書活動推進に関する総合的な連携推進及び連絡調整に係わる事務・支援に携わるセンターとして設置した。

「読りーむinちの」と連携しながら、園、学校、家庭、地域等での子どものための読書推進活動の応援をする。



- ・園の「絵本の時間」、学校の「朝読書」の応援と助言（読書の質と幅を広げる）
- ・学校図書館の運営・研修に係る支援・相談（司書教諭会、毎月の学校司書会への参加）
- ・学校図書館の利用の促進と「調べ学習」の研修（調べ学習 調べ学習コンクールの実施）
- ・「読りーむinちの」の事務局を置き連携と調整
- ・読書活動推進関係機関、団体との連携と支援体制
- ・読書ボランティアへの応援及び交流会の実施
- ・家庭や地域、地区こども館と市図書館との連携
- ・各種読書研修会と読書講座等の企画運営



## 四 読書活動の成果・効果

- ① 子どもたちの集中力が高まった
- ② 読書することが好きで、不読者はいない  
「好き」「どちらかといえば好き」を合わせて 全国平均より  
小学校13% 中学校10% 高い
- ③ 子どもたちの表現力や発言力が高まった
- ④ 家庭読書が比較的望ましい環境になりつつある  
家庭での読書 小学校81% 中学校68%  
家庭で本を話題にする 小学校51% 中学校42%
- ⑤ ブックプレゼントによって、保護者の読書意識の関心が高まってきた
- ⑥ 本をよく読む学校ほど学力が高い傾向にある

## 五 子ども読書活動推進での課題と方向

- (1)「茅野市読書活動推進計画」の理念と方法及び経緯の確認(推進計画の読み合わせ)
- (2)「読リーむinちの」「読書ボランティアグループ」のメンバーの高齢化と新鮮さが薄れているので、若いメンバーの勧誘と組織の若返りを図る
- (3)発達段階における読書活動の一体化を図るために、幼保小連携と小中一貫を見据えた読書活動を行う(園から中学校までの読書カリキュラム作成)
- (4)こども読書活動応援センターが機能的に働くように、「茅野市読書ランドデザイン」を作成し、読書のめざす姿、3ヶ年重点目標、他の機関との連携等をまとめる。